

農林水産政策研究所 研究成果報告会
2021年11月30日

ロシア、ブラジル・アルゼンチン、オーストラリア ーコロナ禍と農業ー

1. ロシア

農林水産政策研究所 国際領域
長友 謙治

目次

1. 現在のロシア農業： 世界の中での位置づけ
2. ロシアの耕種農業： 生産・輸出
3. ロシアの農産物貿易政策： ブレーキからアクセルへ？
4. コロナ禍とロシア
5. コロナ禍後の農産物輸出制限措置
6. まとめ

※ 本資料は、2021年11月22日までに入手できたデータをもとに作成。

1. 現在のロシア農業： 世界の中での位置づけ(※数値はUSDA, FAOによる)

【世界有数の穀物生産国】

- ① 麦類の生産量は世界有数。(※データは2018/19年度～2020/21年度の3年度平均。年度は7月～翌年6月)
← 小麦:76.9百万トン(世界4位)、大麦:19.1百万トン(世界2位)
- ② トウモロコシの生産量(13.2百万トン)が増えているが、麦類ほど多くない。
← ロシアは栽培適地が限られる(降水量が少なく、暖かい期間が短い。←ウクライナの方が生産量、単収ともに大きい)。
- ③ ロシアの穀物生産は粗放的
← 肥料などの投入は相対的に少なく、単収が低い。年による生産量の変動も大きい。

世界の主要穀物生産国(2018/19-2020/21年度平均 生産量:千トン、単収:トン/ha)

順位	小麦			大麦			トウモロコシ		
	国名	生産量	単収	国名	生産量	単収	国名	生産量	単収
	世界計	756,203	3.51	世界計	152,596	2.99	世界計	1,120,399	5.75
1位	中国	133,097	5.48	EU	53,411	4.75	米国	356,224	10.78
2位	EU	129,287	5.44	ロシア	19,102	2.35	中国	259,541	6.25
3位	インド	103,777	3.50	豪州	10,649	2.30	ブラジル	96,333	5.18
4位	ロシア	76,883	2.92	カナダ	9,835	3.72	EU	65,166	7.46
5位	米国	51,213	3.19	ウクライナ	8,360	3.16	アルゼンチン	50,667	8.09
参考	ウクライナ(7位)	26,549	3.95				ウクライナ(6位)	33,996	6.82
							ロシア(11位)	13,187	5.20

資料: 米国農務省(USDA, PSD Online, 2021年10月30日アクセス)。単収は生産量と収穫面積から筆者計算。

【工芸作物等の生産も世界有数】

- ・ ヒマワリ種子 (2018/19-2020/21年度平均) : ロシア13.8百万トン(世界2位)、ウクライナ15.2百万トン(1位)
- ・ テンサイ (2017-2019年平均) : ロシア49.4百万トン(1位)、ウクライナ13.0百万トン(7位)
- ・ ジャガイモ (2017-2019年平均) : ロシア22.1百万トン(3位)、ウクライナ21.7百万トン(4位)

← 穀物同様、生産は粗放的で単収は低い。

工芸作物等の主要生産国(生産量:千トン、単収:トン/ha)

順位	ヒマワリ種子(2018/19-2020/21年度平均)			テンサイ(2017-2019年平均)			ジャガイモ(2017-2019年平均)		
	国名	生産量	単収	国名	生産量	単収	国名	生産量	単収
	世界計	51,246	1.95	世界計	288,733	60.17	世界計	368,619	21.29
1位	ウクライナ	15,200	2.29	ロシア	49,443	43.46	中国	90,187	18.62
2位	ロシア	13,761	1.67	フランス	41,413	87.58	インド	50,035	23.11
3位	EU	9,268	2.19	ドイツ	29,993	73.20	ロシア	22,059	17.02
4位	アルゼンチン	3,497	2.07	米国	29,392	68.31	ウクライナ	21,660	16.44
5位	中国	2,430	2.66	トルコ	18,890	60.31	米国	20,019	49.44
参考				ウクライナ(7位)	13,018	48.24			

資料:ヒマワリ種子はUSDA, PSD Online(2021年10月30日アクセス)、テンサイ、ジャガイモはFAOSTAT(2021年11月3日アクセス)。いずれも単収は生産量と収穫面積から筆者計算。

【穀物の主要輸出国】

世界の穀物貿易においては、ロシアは小麦と大麦の主要輸出国。近年トウモロコシの輸出も増加。

【直近3年度のロシアの平均輸出量】：2018/19年度～2020/21年度の3年度平均

- ・ 小麦36.3百万トン（世界第1位）← ロシアの穀物輸出は小麦に集中。
- ・ 大麦5.1百万トン（世界第2位、ウクライナは4.2百万トンで第4位）
- ・ トウモロコシ3.6百万トン（世界第6位、ウクライナは27.7百万トンで第4位）
← ウクライナの穀物輸出はトウモロコシに重点。

主要穀物の主な輸出国（2018/19～2020/21年度平均、単位：千トン）

順位	小麦		大麦		トウモロコシ	
	世界計	190,606	世界計	30,114	世界計	177,665
1位	ロシア	36,283	EU	6,686	米国	55,863
2位	EU	31,394	ロシア	5,127	アルゼンチン	36,999
3位	米国	26,287	豪州	5,104	ブラジル	31,631
4位	カナダ	25,138	ウクライナ	4,228	ウクライナ	27,683
5位	ウクライナ	17,962	アルゼンチン	2,819	EU	4,354
参考					ロシア（6位）	3,581

資料：USDA, PSD Onlineより筆者作成（2021年11月3日アクセス）。

2. ロシアの耕種農業：生産・輸出

(1) 生産概観(※以下、数値はロシア政府公表の統計による)

① 長期の趨勢

- ・ ソ連解体後の混乱で、ロシアの農業生産は1990年代末まで縮小。その後回復、拡大へ。
- ・ 穀物・豆类(以下「穀物」)総収穫量の5年平均値も同様の動き。2016-20年は1億2,483万トンで、ソ連末期の1986-90年を超過。

② 2020年の状況

- ・ ロシアの穀物生産は、欧露南部の一部で不作はあるも、総じて良好。総収穫量は1億3,346万トンで2017年に次ぐ史上2位。小麦の8,590万トンも同様。
- ・ 油糧作物の生産も良好。ヒマワリ種子、大豆は対前年減少も史上2位。菜種は1位。
- ・ テンサイの収穫量は低水準。近年の生産過剰・価格低下に対応した播種面積減と天候不順が原因。

③ 2021年の状況

- ・ 穀物収穫量見通しは1億23百万トン(11月10日大統領・政府会合での農業大臣報告)。

ロシアの主要耕種作物の収穫量

(単位: 万トン)

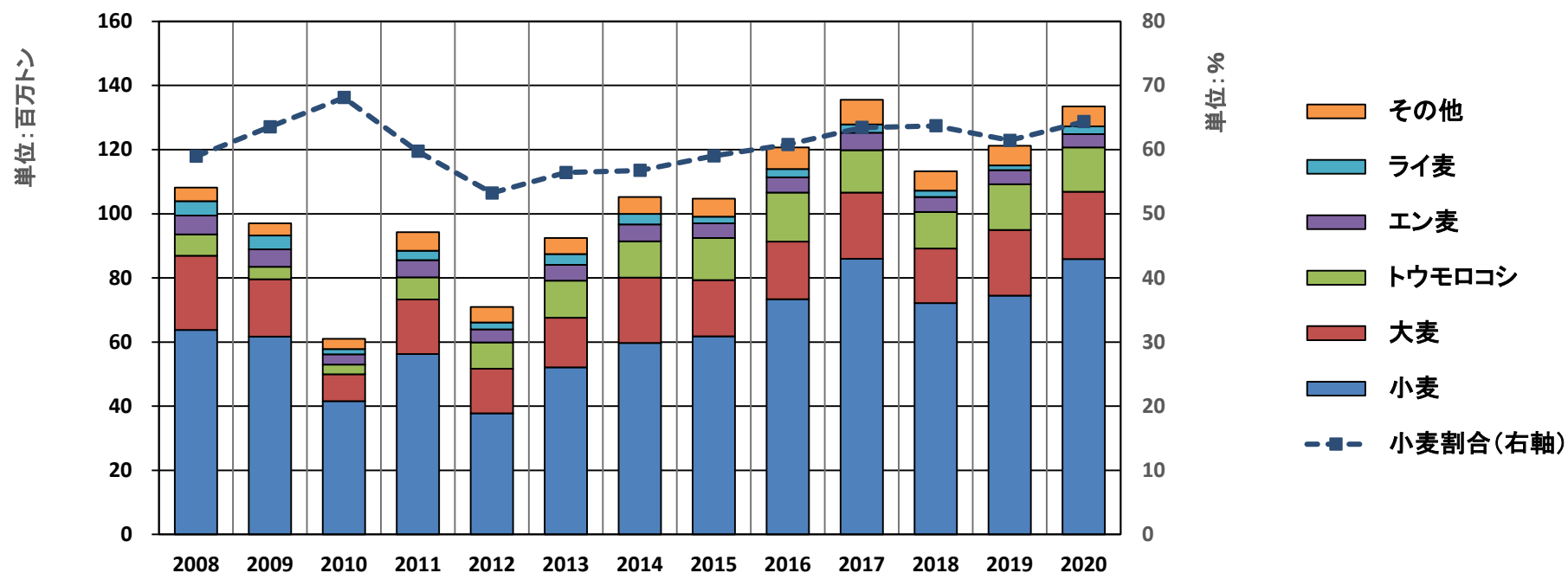
	5年平均値							2016	2017	2018	2019	2020
	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	2011-2015	2016-2020					
穀物・豆类	10,426	8,795	6,510	7,883	8,518	9,351	12,483	12,068	13,554	11,325	12,120	13,346
小麦	4,355	3,817	3,430	4,495	5,226	5,354	7,837	7,335	8,600	7,214	7,445	8,590
ライ麦	1,245	876	538	488	347	277	216	255	255	192	143	238
大麦	2,202	2,377	1,421	1,777	1,660	1,683	1,940	1,797	2,063	1,699	2,049	2,094
エン麦	1,258	1,050	655	561	494	483	470	477	546	472	442	413
トウモロコシ	330	184	141	215	420	1,023	1,361	1,528	1,321	1,142	1,428	1,388
その他穀物	593	238	192	174	217	307	309	383	343	264	278	279
豆类	443	254	132	174	155	224	349	294	426	344	334	345
工業作物												
テンサイ	3,318	2,166	1,402	1,853	2,712	4,088	4,671	5,132	5,191	4,207	5,435	3,392
油糧作物	—	380	381	526	798	1,254	1,926	1,627	1,650	1,953	2,277	2,125
ヒマワリ種子	312	310	333	451	631	884	1,259	1,102	1,048	1,276	1,538	1,331
大豆	65	47	31	48	87	199	389	314	362	403	436	431
菜種	—	14	13	20	65	110	183	100	151	199	206	257
その他油糧作物	—	9	5	7	14	61	96	111	88	76	97	105
馬鈴薯	3,588	3,681	3,183	2,836	2,576	2,525	2,165	2,246	2,171	2,239	2,207	1,961
野菜	1,117	1,023	1,051	1,123	1,168	1,289	1,369	1,318	1,361	1,369	1,410	1,386

資料: ロシア連邦統計庁ウェブサイト等から筆者作成。

※ ロシア政府の公表するロシア連邦全体の統計値は2014年以降クリミアの値を含む一方、USDAの公表するロシアの値はこれを含まない。

2. (2) 近年の穀物生産動向

- 2010年、12年には干ばつ等により穀物は凶作。その後は極端な悪天候がない年が続く。
- 穀物収穫量は2014年以降連続して1億トン超え。2020年の133百万トンは2017年に次ぐ史上2位。
- 小麦が穀物収穫量の6割程度を占める。次いで大麦、トウモロコシ。3品目でおおむね9割。



資料:ロシア連邦統計庁より筆者作成。

ヨーロッパ・ロシア南西部・中央黒土地域：ヴォロネジ州の小麦畑（収穫間近の冬小麦）

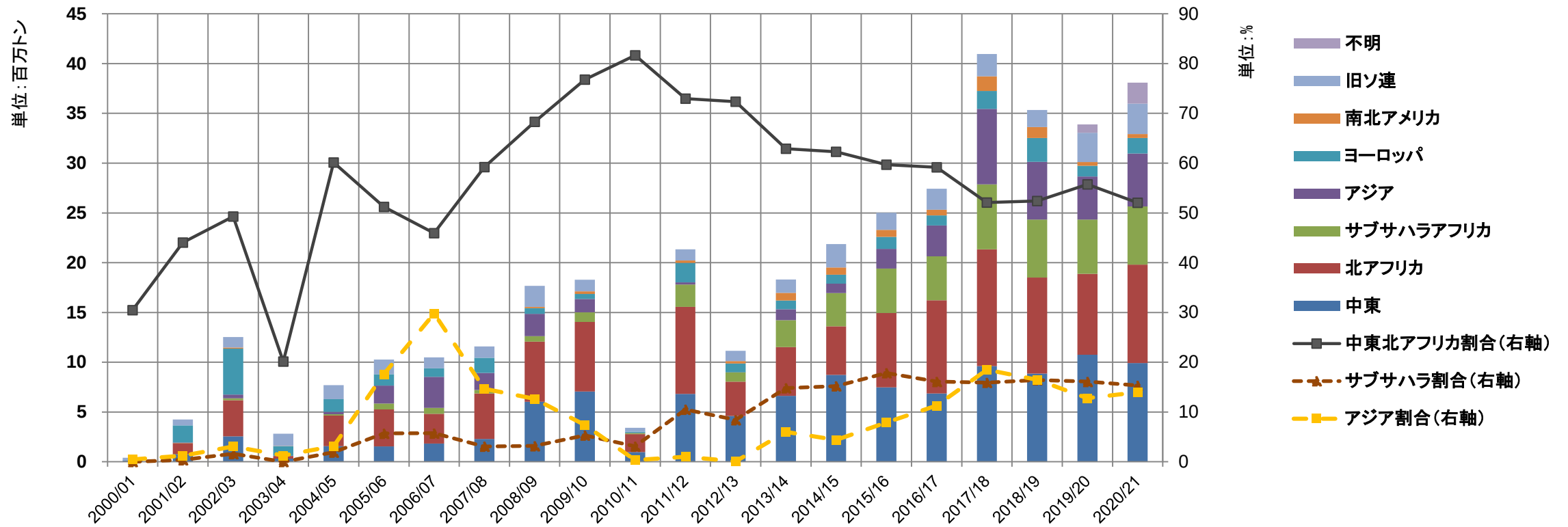
2017年7月17日筆者撮影



2. (3)ロシアの小麦輸出:地域別輸出状況

2020/21年度(2020年7月~21年6月)の小麦総輸出量:38.1百万トン(2017/18年度に次ぐ史上2位)

- ・ 中東・北アフリカ(エジプト、トルコ、イラン等):19.8百万トン(52.0%) = 最大の輸出先(シェア低下も50%強で横ばい)
- ・ サブサハラ・アフリカ(ナイジェリア等):5.8百万トン(15.3%) → シェアは上昇後15%程度で頭打ち
- ・ アジア(バングラデシュ、インドネシア、ベトナム等):5.3百万トン(14.0%) → 同上

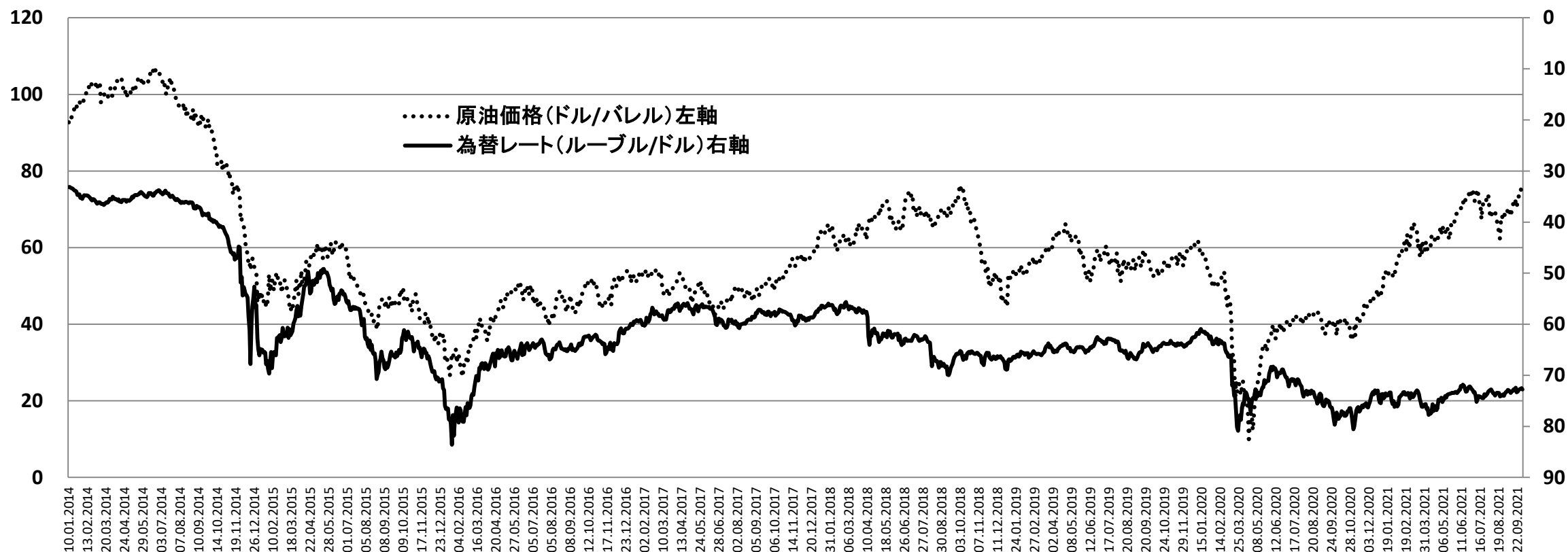


ロシアの小麦輸出量の地域別動向

資料: ロシア通関統計より筆者作成。

【近年の小麦生産/輸出拡大の背景】

- ① 作付面積増加の要因: 2014年以降続くルーブル安の下で、ロシアの小麦生産・輸出の収益性が高水準となり、輸出向け生産に適した地域で生産拡大意欲が刺激されたこと。
- ② 単収上昇の要因: 上記産地では穀物の生産面の改善(肥料等の投入増加、優良な品種・種子の利用拡大、機械装備の充実等)も進んでいるとみられ、天候に大きな問題がない年が続く中で、これらの効果が十分発現したこと。



原油価格とルーブル相場の推移(2014年1月～2021年9月)

資料: USEIA(原油価格Cushing, OK Crude Oil Future Contract 1), ロシア銀行(為替レート)から筆者作成.

3. ロシアの農産物貿易政策：ブレーキ(輸出入制限)からアクセル(輸出促進)へ？

(1) 農水産物純輸入国からの脱却へ

① ロシアの貿易収支全体は、石油、天然ガス等の輸出を中心として大幅な黒字。2020年の黒字額は1,054億ドル(石油価格の下落が対前年減少の主要因)。

② 農水産物(HS1～24類)の貿易収支は継続的な赤字。背景には、穀物等の低単価の農産物を輸出する一方、食肉、酪農品、酒類、加工食品のような高単価の品目を多く輸入する貿易構造。

← 2014年からの対欧米食品輸入禁止措置の発動や大幅なルーブル安によって、農水産物の貿易赤字は大幅に縮小し、輸出促進が政策課題に。

← 2020年の赤字額は2億ドルまで縮小。コロナ禍・景気後退による需要減少と穀物等の輸出拡大。

ロシアの貿易構造

(単位：億ドル)

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
輸出額	総額	5,167	5,247	5,260	4,974	3,435	2,857	3,573	4,503	4,243	3,371
	農水産物	133	168	163	190	162	171	207	250	248	296
輸入額	総額	3,058	3,173	3,153	2,871	1,827	1,824	2,279	2,387	2,446	2,317
	農水産物	425	407	433	400	266	251	290	298	300	297
差額	総額	2,110	2,075	2,107	2,103	1,608	1,032	1,294	2,116	1,797	1,054
	農水産物	▲ 292	▲ 239	▲ 270	▲ 210	▲ 104	▲ 80	▲ 82	▲ 48	▲ 51	▲ 2

資料：ロシア連邦税関庁「通関統計」各年版から筆者作成（各年の値は2020年を除き翌年版掲載の数値を採用）。

3. (2) ブレーキ：穀物の輸出制限（その1：コロナ禍まで）

- ・ 凶作による供給不足（①、③）や輸出の過熱（②、④、⑤）により、国内の安定供給が懸念される際に発動。
- ・ 2010年の輸出禁止以降は、輸出制限の発動は慎重になり、措置の内容も抑制的。
- ・ 2016年9月23日以降は、輸出関税の仕組み（⑤）を残しつつ関税額無税を継続（2021年6月末までの予定）。

ロシアの穀物輸出制限一覧（その1：コロナ禍まで）

措置	対象品目	関税率等	適用期間	背景
①輸出関税	小麦・メスリン、ライ麦	25ユーロ/トン	2004.1.16～5.1	2003年の凶作による供給不足
②輸出関税	小麦・メスリン	10%（最低22ユーロ/トン）	2007.11.12～2008.1.28	国際的な穀物価格の高騰
		40%（最低105ユーロ/トン）	2008.1.29～6.30	
	大麦	30%（最低70ユーロ/トン）	2007.11.12～2008.6.30	
③輸出禁止	小麦・メスリン、大麦、ライ麦、トウモロコシ等	対象穀物の輸出禁止	2010.8.15～2011.6.30	2010年の凶作による供給不足
④輸出関税	小麦・メスリン	15%＋7.5ユーロ/トン（最低35ユーロ/トン）	2015.2.1～5.14	ルーブル安による輸出の進展と国内価格の上昇
⑤輸出関税	小麦・メスリン	課税価格の50%－5,500ルーブル/トン（最低50ルーブル/トン）	2015.7.1～9.30	
	小麦・メスリン（種子用等は除く）	課税価格の50%－6,500ルーブル/トン（最低10ルーブル/トン）	2015.10.1～2016.9.22	

資料：関係のロシア連邦政令及びユーラシア経済委員会決定から筆者作成。

3. (2) ブレーキ：対欧米逆制裁としてのロシアの食品輸入禁止措置

ウクライナ危機に伴う欧米の対ロシア経済制裁に対抗して2014年8月から発動。

① 対象国・地域

〔当初〕 米国、EU加盟国、カナダ、オーストラリア、ノルウェー

〔2015年8月追加〕 アルバニア、モンテネグロ、アイスランド、リヒテンシュタイン

〔2016年1月追加〕 ウクライナ

〔2020年12月追加〕 英国（EU脱退に伴う対応）

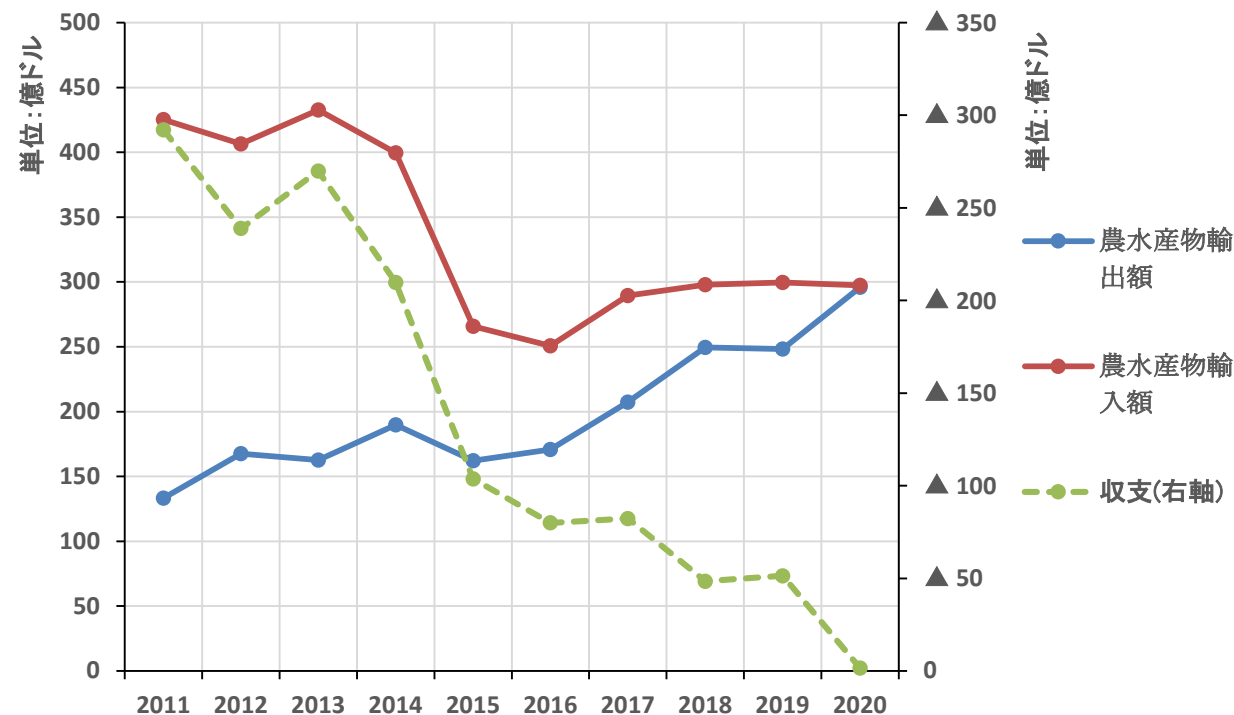
② 主な対象品目： 食肉・肉製品、水産物、牛乳・乳製品、野菜、果実 等

③ 発動期間： 当初2015年8月までの1年間としていたが、欧米の経済制裁延長に対応して累次延長され、現在は2021年12月末日までとされている。

3. (3) アクセル:プーチン大統領の農産物輸出拡大目標

「2024年までのロシア連邦の国家目標と戦略的課題」(2018年5月7日付けロシア連邦大統領令第204号)

- ・ プーチン大統領が2018年5月の大統領就任に当り任期(第4期:2024年までの6年間)中の課題と目標を示し、政府に対応を指示。
- ・ 対象12分野の一つ「国際協力と輸出」の目標に、「非原料・非エネルギー品目としては2,500億ドル、そのうち機械製造業の生産物では500億ドル、農産複合体の生産物では450億ドルの年間輸出金額の達成」が掲げられた。
- ・ 「農産複合体生産物の輸出額」
(HS1~24類の農水産物の輸出額に近い値)
2017年:216億ドル → 2024年:450億ドル



ロシアの農水産物貿易と収支

資料: ロシア連邦税関庁「通関統計」から筆者作成(スライド14の数値をグラフ化したもの)。

4. コロナ禍とロシア

(1) COVID-19:ロシアの状況

○2021年11月20日現在の感染状況(WHO)

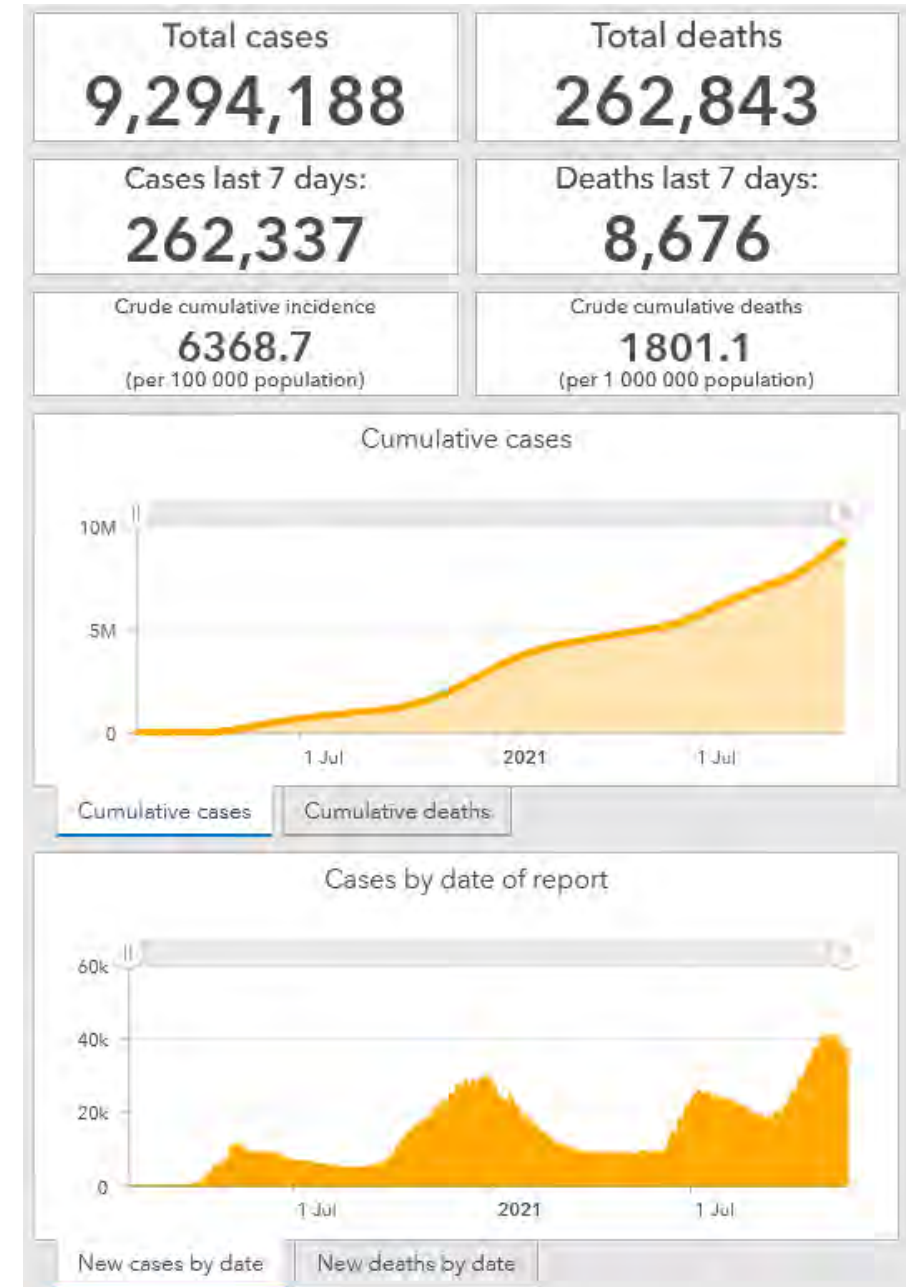
- 累計感染者数:929万4,188人
米国、インド、ブラジル、英国に次ぐ世界5位
- 累計死者 :26万2,843人
米国、ブラジル、インド、メキシコに次ぐ世界5位
- 直近1週間の感染者数:26万2,337人
- 直近1週間の死者数:8,676人

○11月19日現在のワクチン接種状況(стопкоронавирус.рф)

- 1回接種:6,640万393人(総人口比45.4%)
- 接種完了:5,271万3,240人(同40.2%)
(2021年1月1日現在総人口1億4,617万1,015人)

○「非労働日」の決定

- 第1回:2020年3月28日～5月11日
- 第2回:2021年10月30日～11月7日



4. (2) コロナ禍のロシア経済への影響

- 2020年の実質GDP成長率は-3%。20年第2四半期～21年第1四半期までマイナス成長が続く。

← コロナ禍に伴う家計消費や投資の減少(1回目の非労働日:2020年3月28日～5月11日のロックダウン実施等が影響)

← 原油安に伴う輸出額の減少

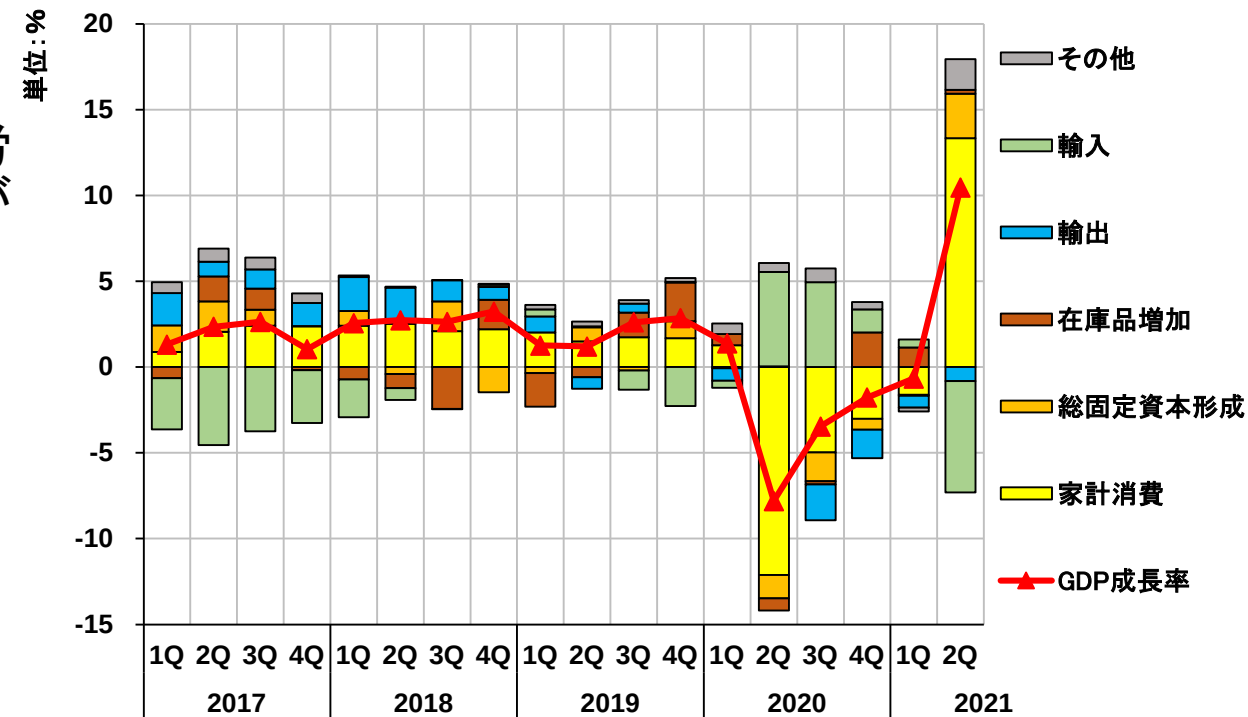
- 国民生活の悪化

- ・ 所得水準の低下: 実質現金所得は、2020年第2～2021年第1四半期の間、対前年同期マイナス(2020年第2四半期は92.9%)
- ・ 失業率の上昇: 2020年1-3月4.6% → 7-9月6.4%
→2021年6-8月4.6%

- 2020年の農業の成長率*は+0.5%。

← 穀物・油糧種子の豊作と価格上昇が主要因。

(*耕種農業、畜産業、狩猟業及び関連サービス業の総付加価値額の対前年増加率)



ロシアの支出項目別実質GDP成長率寄与度

資料: ロシア連邦統計庁から筆者作成.

4. (3) 社会的重要品目(食品)の価格高騰と対策(2020年12月)

1. 背景/経緯

- ・ 社会的重要品目(食品)の価格高騰を受け、プーチン大統領の指示に基づき連邦政府が措置を決定。
→ コロナ禍で国民生活が苦境にある中、社会的重要品目の価格高騰は許容できないとの判断。
→ 原因は、ルーブル安と国際価格上昇を背景とした輸出の過熱にあるとして輸出制限を導入。

2. 措置の概要

① 緊急措置

- ・ 政府と製造、流通・製造業界団体で協定を結び、砂糖と植物油の小売価格を規制。

② 2021年に講じる措置

【砂糖関係】

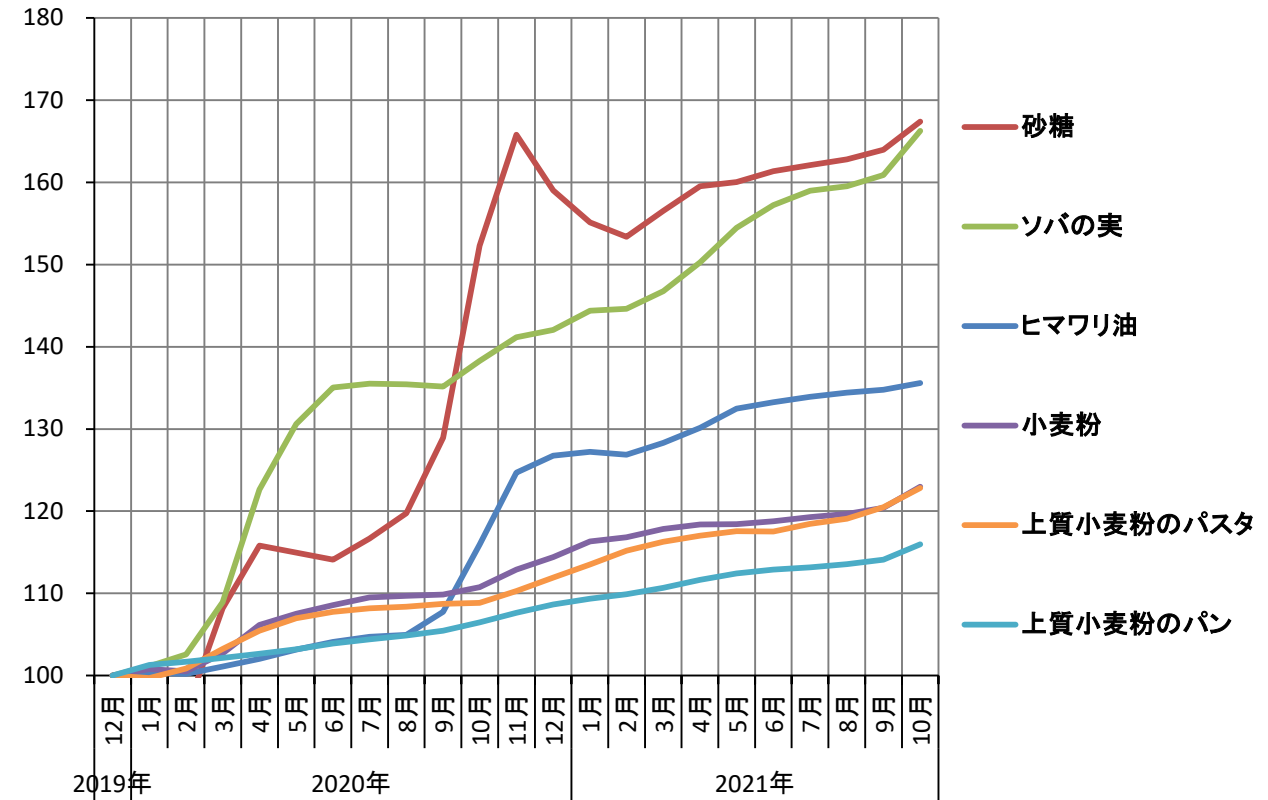
- ・ 製糖業者に対し原料のテンサイ購入資金に係る低利融資(金利1~5%)を供与。
- ・ テンサイ播種面積の拡大。

【ヒマワリ油関係】

- ・ ヒマワリ種子の輸出関税を導入。
- ・ ヒマワリ油の輸出関税導入を検討。

【パン、小麦粉関係】

- ・ 穀物の輸出数量枠及び輸出関税を導入。
- ・ 製粉業者に対して食用小麦の購入費用、製パン業者に対して粉の購入費用の一部を助成。



社会的重要品目(食品)の消費者価格の動向
(2019年12月:100)

資料:ロシア連邦統計庁EMISSより筆者作成。

5. コロナ禍後の農産物輸出制限措置
 (1) 穀物の輸出制限(その2:コロナ禍後)

ロシアの穀物輸出制限一覧(その2:コロナ後)					
措置	対象品目	関税率等		適用期間	背景
⑥輸出数量枠	小麦, ライ麦, 大麦 トウモロコシ	対象穀物の総輸出量上限700万トン		2020.4.1～6.30	新型コロナ禍、ルーブル安下の輸出進展・国内価格上昇(輸出と国内安定供給の両立)
⑦輸出禁止	ライ麦, 米, ソバ, キビ等	輸出禁止		2020.4.12～6.30	ユーラシア経済連合(EEU)による新型コロナ禍対策の一環
⑧輸出関税割当	小麦, ライ麦, 大麦, トウモロコシ	輸出数量枠	対象穀物の総輸出量1,750万トン	2021.2.15～6.30	新型コロナ禍による景気低迷・所得減少下での国内価格上昇の阻止(国際価格上昇とルーブル安による輸出の加速が背景との判断)
		枠内輸出関税	小麦	25ユーロ/トン	
			50ユーロ/トン	2021.2.15～2.28	
			大麦	無税	
			10ユーロ/トン	2021.3.1～6.1	
			トウモロコシ	無税	
			25ユーロ/トン	2021.2.15～3.14	
⑨可変輸出関税 +輸出関税割当	小麦, ライ麦, 大麦, トウモロコシ	可変輸出関税	輸出関税額[トン当たり]=(指標輸出価格－基準輸出価格)×0.7	2021.6.2～	国際価格高騰の国内への影響を緩和する恒久的措置であり, 輸出関税を財源とする国内助成とセット(穀物ダンパー)
			*基準輸出価格: 小麦200ドル/トン, 大麦・トウモロコシ185ドル/トン	・年度前半(7.1～12.31):可変輸出関税単独	
				・年度後半(翌年1.1～6.30):輸出数量枠+可変輸出関税又は可変輸出関税単独	
⑩輸出禁止	ソバ	輸出数量枠			
		輸出禁止		2021.6.5～8.31	国内価格上昇

資料:各規制の根拠となるロシア連邦政令等から筆者作成。

5. (2) 穀物の輸出制限(その2:コロナ禍後) ※前スライド⑧、⑨の措置を整理

- ・ コロナ禍で経済が後退し、国民の所得水準が低下する中で、国民生活上不可欠な食品、中でも重要な小麦等の穀物・製品の価格が大幅に上昇したため、内政的に許容できないとして、プーチン大統領が政府に対策を指示。
- ・ 穀物価格高騰の原因は、ルーブル安と国際価格上昇に対応した輸出の加速にあるとして、小麦、トウモロコシ、大麦及びライ麦を対象に輸出規制措置を導入。
- ・ 2020年12月に措置を決定した後、2021年2月にかけて矢継ぎ早に措置の見直しを繰り返し(導入も含め3回の制度変更)。
- ・ 小麦の場合、最も高い50ユーロ/トンの輸出関税が適用された時期には輸出が激減(2020/21年度を通して見れば史上第2位の輸出量)。

ロシアの2021年の穀物輸出規制概要 (小麦の場合)

時期		2021.2.15～2.28	3.1～6.1	6.2～6.30	7.1～12.31
制度		輸出関税割当制度			可変輸出関税制度
税率(額)	数量枠	1,750万トン（対象穀物計）			(指標輸出価格－200ドル/トン) × 70%
	枠内	25ユーロ/トン	50ユーロ/トン		
	枠外	50%（最低100ユーロ/トン）			

資料: 各規制の根拠となるロシア連邦政令から筆者作成。

【穀物の可変輸出関税の仕組み】

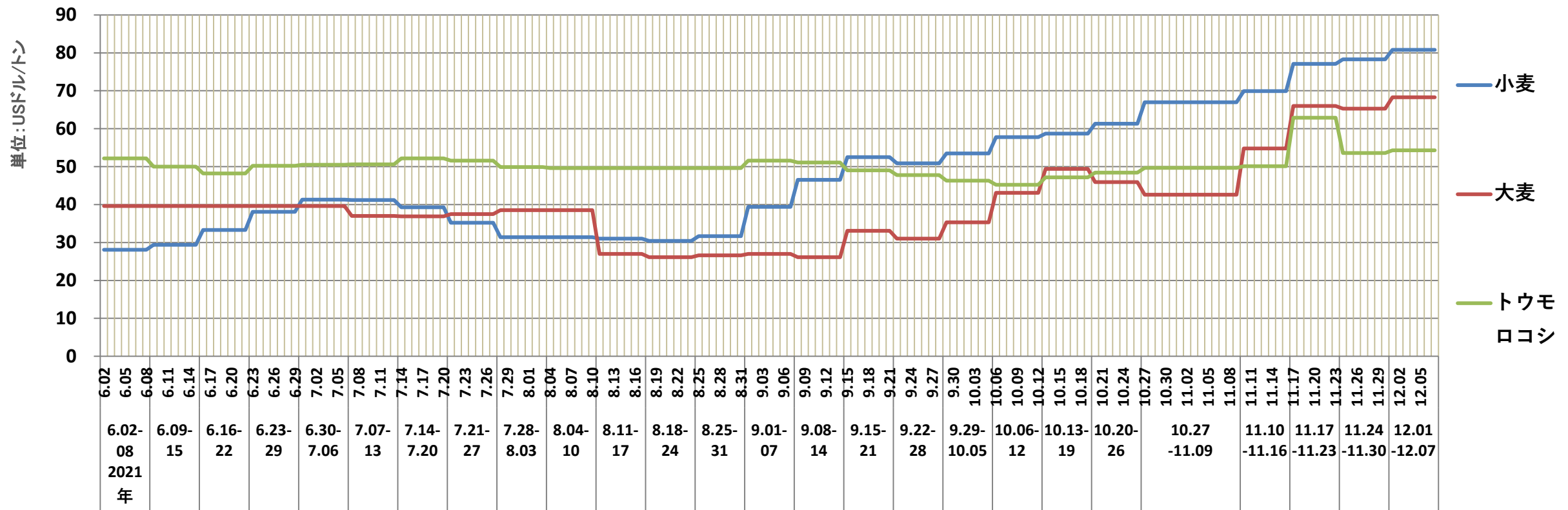
- ① 対象品目:小麦, ライ麦, 大麦及びトウモロコシの4品目。
- ② 適用期間:2021年6月2日から(恒久的な適用を想定)。
- ③ 関税額(率)及び輸出数量枠:ロシアの農業年度(毎年7月～翌年6月)を前提として以下の枠組みを設定。
 - a. 年度前半(7月1日～12月31日):輸出数量枠の設定は想定されていない。可変輸出関税(税額は下記④参照)を適用する。
 - b. 年度後半(1月1日～6月30日):輸出数量枠を設定する場合は、枠内輸出には可変輸出関税、枠外輸出には50%(最低100ユーロ/トン)の輸出関税が適用される。輸出数量枠を設定しない場合は可変輸出関税が適用される。
- ④ 可変輸出関税の税額
 - 可変輸出関税のトン当たりの輸出関税額は、連邦農業省が下記の式により毎週算出・公表する。小麦、大麦及びトウモロコシが対象(ライ麦は無税)。
「輸出関税額[トン当たり] = (指標輸出価格 - 基準輸出価格) × 0.7」
 - a. 指標輸出価格:モスクワ証券取引所・全国商品取引所におけるドル建てノヴォロシスク港渡しFOB価格相場に基づき、連邦農業省が毎週算出・公表する値。
 - b. 基準輸出価格:小麦は200ドル/トン、大麦・トウモロコシは185ドル/トン。

※ 可変輸出関税の税額及び基準輸出価格はロシア連邦農業省が下記アドレスにて公表。

<https://mcx.gov.ru/ministry/departments/departament-ekonomiki-investitsiy-i-regulirovaniya-rynkov/industry-information/info-zernovye-kultury/>

【穀物可変輸出関税額の推移】

- ・ 例年、7月からの年度初めは穀物の供給が豊富で、価格が下がるが、今年度は国際価格高騰の影響でロシアの輸出価格も高く、可変輸出関税が課され、税額が上昇する状況が続いている。
- ・ 2021年12月1日～12月7日の可変輸出関税額は、小麦:80.8、大麦68.3、トウモロコシ54.3(USD/トン)。指標輸出価格をベースとして税率に換算すると、小麦:25.6、大麦24.2、トウモロコシ20.7(%)

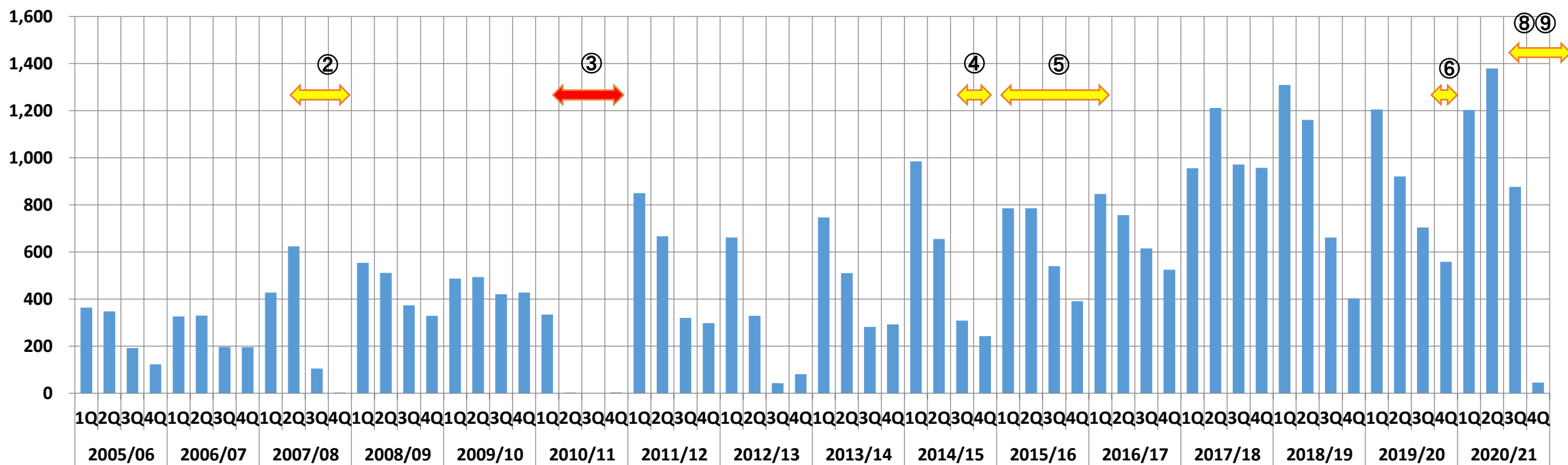


ロシア穀物可変輸出関税額の推移

資料:ロシア連邦農業省ウェブサイトより筆者作成。

【ロシアの小麦輸出量の変動と輸出制限】長期的な動向

- ・ 伝統的な輸出国と比べると、生産量に対して国内需要量が大きく、輸出余力が相対的に小さい中で、天候による生産量の変動があり、もともと輸出量の変動は大きい傾向。
- ・ かつては、輸出制限の発動によって輸出が途切れる時期が発生し、輸出量の変動を増幅。近年は、総じて輸出量が増加し、輸出制限の発動期間中も輸出が続いていたが、小麦の輸出関税が50ユーロ/トンに達した2020/21年度第4四半期は輸出が激減。



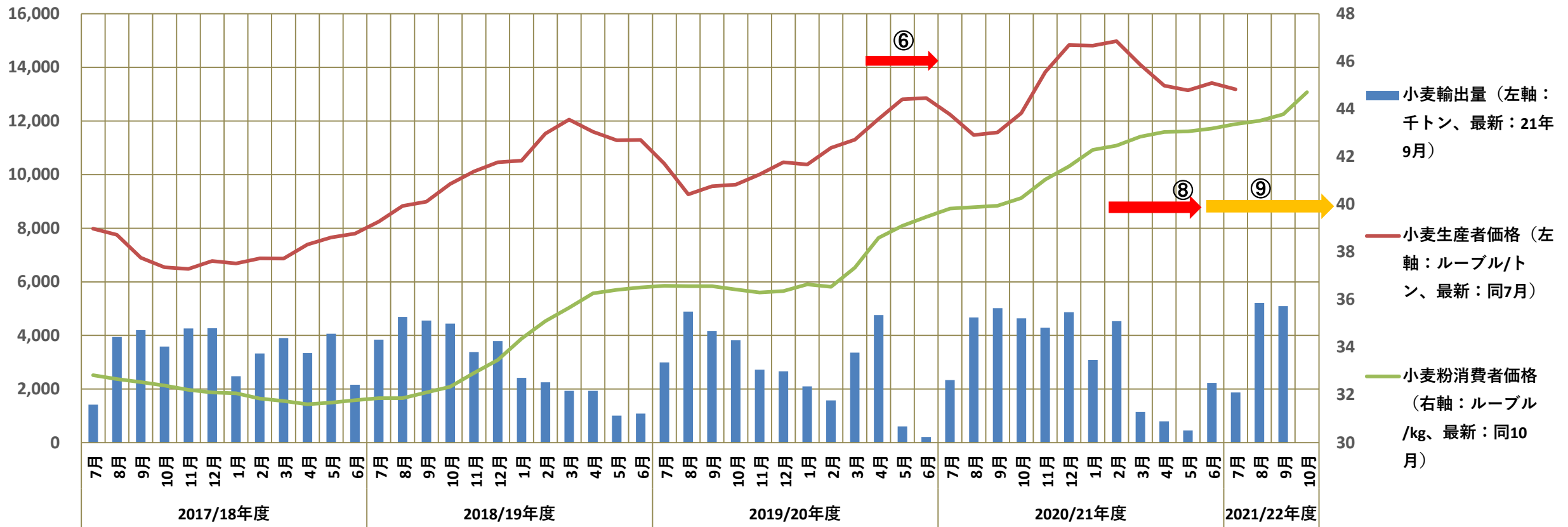
ロシア小麦輸出量の推移と穀物輸出制限の発動状況(四半期別、万トン)

資料:ロシア連邦税関庁通関統計より筆者作成。

注. 時期区分は、ロシアの農業年度による。両矢印は穀物輸出制限(丸数字はスライド12、18の表に対応)。

【近年のロシアの小麦輸出量と価格の動向】

- ・ 輸出量は、輸出制限導入・強化前の駆け込み増とその後の反動減が顕著（特に、⑥輸出数量枠：2020年4月1日～6月30日、⑧輸出数量枠＋輸出関税：2021年2月15日～6月1日、関税額は2月中25ユーロ/トン、3月1日以降50ユーロ/トン）
- ・ 消費者価格は上昇傾向が続く。



近年のロシアの小麦輸出量と価格動向

5. (3) 油糧種子・植物油の輸出制限の強化

【油糧種子】

① 第1の措置(2021年1月/2月～6月末まで)

- ・ 菜種、ヒマワリ種子の輸出関税引上げ(2020年12月10日付け政令2065号)
- ・ 大豆の輸出関税導入(2020年12月31日付け政令2397号)

② 第2の措置(2021年7月～2022年8月末まで)

- ・ 菜種の輸出関税延長(2021年8月6日付け政令547号)
- ・ ヒマワリ種子の輸出関税延長＋引上げ(同上)
- ・ 大豆の輸出関税延長＋引下げ(2021年5月27日付け政令803号)

ロシアの油糧種子輸出関税の強化（2021年以降）

品名	HSコード	措置導入前の輸出 関税率	① 第1の措置		② 第2の措置	
			輸出税率	適用期間	輸出税率	適用期間
菜種	1205 10 900 0	6.5%（最低11.4 ユーロ/トン）	30%（最低165ユーロ/トン）	2021年1月9日 ～6月30日	30%（最低165ユーロ/トン）	2021年7月1日～ 22年8月31日
ヒマワリ 種子	1206 00 990 0	6.5%（最低9.75 ユーロ/トン）			50%（最低320ドル/トン）	
大豆	1201 90 000 0	無税	30%（最低165ユーロ/トン）	2021年2月1日 ～6月30日	20%（最低100ドル/トン）	2021年7月1日～ 22年8月31日

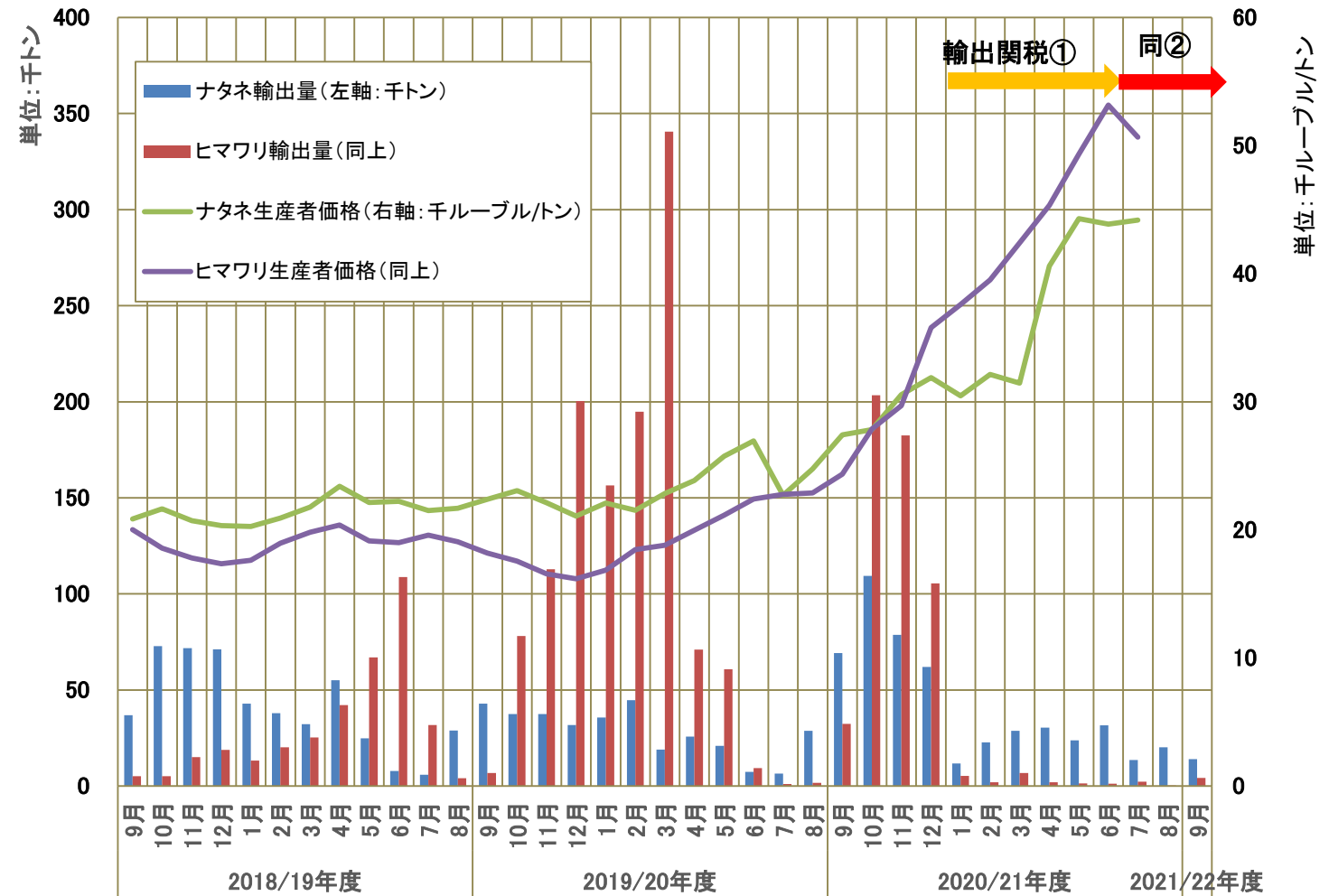
資料：関係のロシア連邦政令から筆者作成。

○ ロシアの油糧種子の輸出量と生産者価格の動向【ヒマワリ種子、菜種】

・ ロシアは、ヒマワリ種子を1,382万トン生産、71万トン輸出、菜種を221万トン生産、48万トン輸出（2018/19～2020/21の3年度平均：ロシア連邦統計庁、税関庁）。

・ ヒマワリ種子、菜種の輸出は、2020年12月までは高水準。輸出関税が大幅に引き上げられた2020年1月以降は、特にヒマワリ種子の輸出量が激減。

・ 油糧種子の生産者価格は、2020年に入ってから騰勢を強め、輸出関税が導入され、輸出が減少した後も上昇が継続。

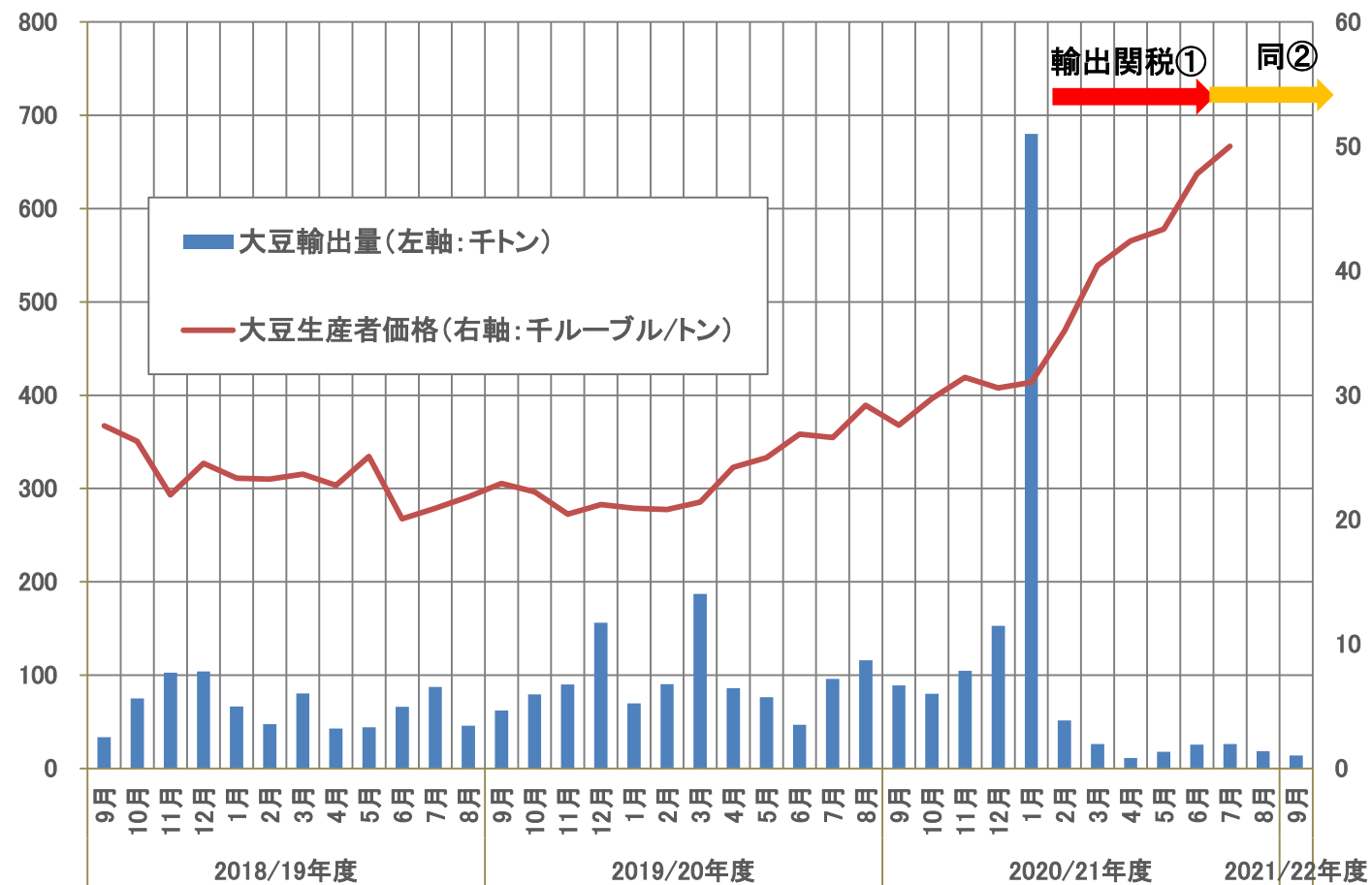


ロシアのヒマワリ・ナタネの輸出量と生産者価格の推移

資料：輸出量はロシア連邦税関庁通関統計データベース、生産者価格（農業組織の値）は連邦統計庁EMISSから筆者作成。

○ ロシアの油糧種子の輸出量と生産者価格の動向【大豆】

- ・ ロシアは、大豆を423万トン生産し、108万トンを輸出(2018/19～2020/21の3年度平均:ロシア連邦統計庁、税関庁)。
- ・ ロシアは、国全体では大豆の純輸入国だが、極東地域産の大豆を主に中国に輸出。
- ・ 輸出関税導入直前の2021年1月には駆け込み輸出が行われ、その後、輸出量は減少。同年7月の輸出関税引下げ後も輸出量の増加は見られない。
- ・ 大豆の生産者価格は、2020年に入ってから騰勢を強め、輸出関税が導入され、輸出が減少した後も上昇が継続。



ロシアの大豆の輸出量と生産者価格の推移

資料: 輸出量はロシア連邦税関庁通関統計データベース、生産者価格(農業組織の値)は連邦統計庁EMISSから筆者作成。

5. (3) 油糧種子・植物油の輸出規制

【ヒマワリ油】

- ・ 穀物(小麦等)と類似の可変輸出関税を導入(2021年4月6日付け政令546号)

ロシアのヒマワリ油輸出関税の強化（2021年9月以降：可変輸出関税導入）

品名	HSコード	措置導入前の 輸出関税率	可変輸出関税			
			税額算出方式	説明	税額・基準輸出価格	適用期間
ヒマワリ油	1512 11 910 1 1512 11 910 9 1512 19 900 2 1512 19 900 9	無税	下記の式により連邦農業省が毎月15日までに算出・公表し、翌月適用。 輸出関税額〔トン当たり〕 ＝（指標輸出価格－基準輸出価格） × 0.7	【指標輸出価格】 Refinitiv SAの"Sunflower Oil NWE Ex-Tank 6 Ports Position 1" を元に連邦農業省が毎月算出・公表。 【基準輸出価格】 1,000ドル/トン	【税額】ドル/トン 2021年9月：169.9 2021年10月：227.2 2021年11月：194.5 2021年12月：276.7 【指標輸出価格】ドル/トン 2021年9月：1,242.8 2021年10月：1,324.7 2021年11月：1,277.9 2021年12月：1,395.4	2021年9月1日～ 22年8月31日

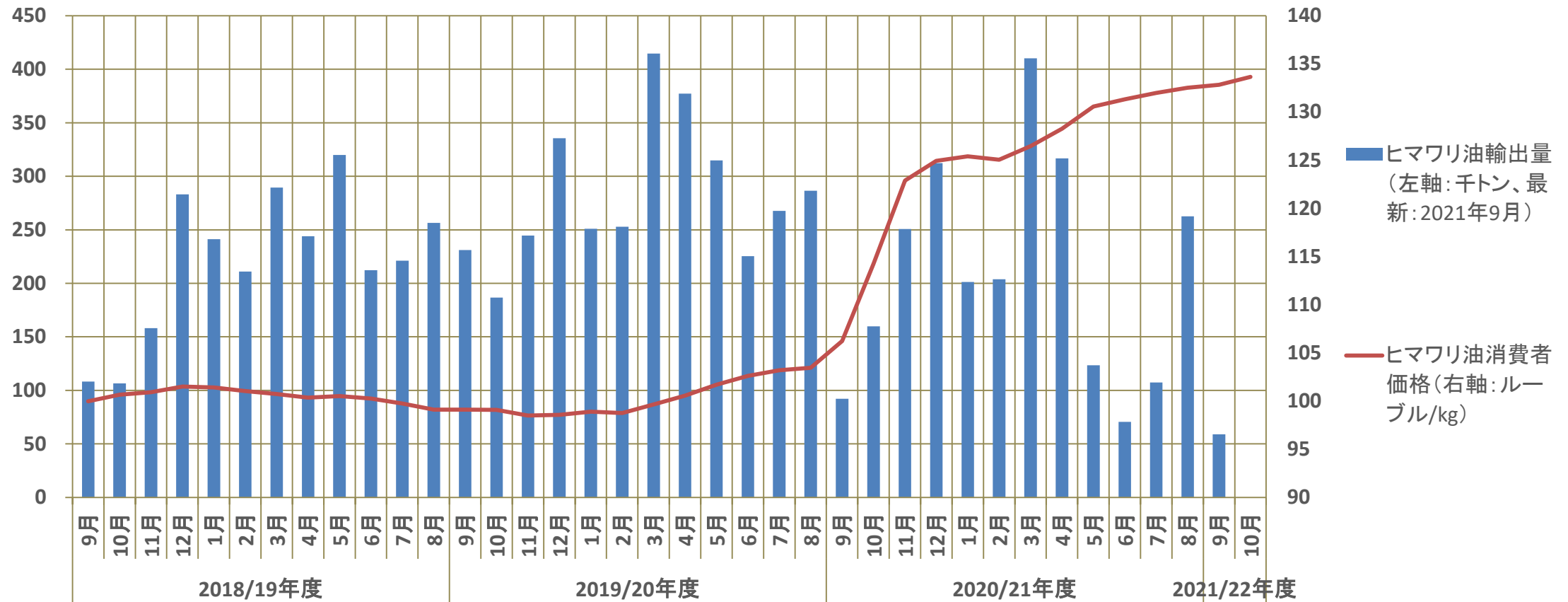
資料：関係のロシア連邦政令から筆者作成。

※ 可変輸出関税の税額及び基準輸出価格はロシア連邦農業省が下記アドレスにて公表。

<https://mcx.gov.ru/ministry/departments/departament-ekonomiki-investitsiy-i-regulirovaniya-rynkov/industry-information/info-maslo-podsolnechnoe/>

○ ロシアのヒマワリ油の輸出量と消費者価格の動向

- ・ ロシアは、ヒマワリ油を525万トン生産し、291万トン輸出（2018/19～2020/21の3年度平均：USDA・PSD Online）。
- ・ 2021年9月から可変輸出関税を導入して輸出を規制。同年8月に急増した輸出量は9月には大幅に減少。
- ・ ヒマワリ油の消費者価格は、2020/21年度に入ってから騰勢を強め、3割程度上昇。可変輸出関税が導入された2021年9月以降も上昇が継続。



ロシアのヒマワリ油の輸出量と消費者価格の推移

資料：ロシア連邦税関庁通関統計データベース及び連邦統計庁EMISSより筆者作成。注：期間区分は油糧種子の市場年度（9月～翌年8月）に合わせた。

6. まとめ

(1) コロナ禍のロシア農業への影響

- マクロ的に見れば、農業生産・農産物輸出への大きな影響は生じていない。
- コロナ禍の影響でロシア経済が後退し、国民生活が悪化する中で、食品価格高騰対策が課題に。

(2) 農産物輸出促進と食料安全保障の間で揺れ動くロシア

- 石油依存からの脱却は、ロシア経済の重要課題。農産物輸出拡大も方策の一つ。
- 他方、穀物輸出大国となった今も、食料の安定供給(数量・価格)は内政の重要課題。
 - 穀物については、輸出制限を導入するも、年度を通じて見れば、それなりの総量の輸出。
 - 制度変更に伴う輸出の不安定(輸出制限導入前の駆け込み輸出、導入後の輸出急減等)。

(3) 農産物輸出を巡る今後の留意点

- COVID-19の状況: 11月20日時点で第4波の最中(感染者数等は過去最悪)。
- ロシア経済へのコロナ第4波の影響が懸念。穀物・油糧種子関連食品の価格高騰が続けば、輸出制限を継続せざるを得ない状況では。
- 原油高はロシア経済にとってプラス要因だが、ルーブル高が進めば農産物輸出のマイナス要因に。
- 小麦等の輸出価格上昇に伴い可変輸出関税額も上昇。輸出への影響や制度の動向に注目。

【参考文献】

2021年3月末頃までの状況を記述。今回の報告は、これらをもとにその後の状況の変化を加えて説明。

○ プロジェクト研究[主要国農業政策・貿易政策] 研究資料

『令和2年度カントリーレポート：EU（農産物貿易政策等，持続可能性確保と経済復興・成長に向けた取組，フランス），英国，ロシア』、「第5章 ロシアーコロナ禍と食料安全保障ー」

https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/project/attach/pdf/210331_R02cr05_05.pdf

○ 農林水産政策研究所レビューNo.102（2021年7月30日）

世界の農業・農政「ロシアの穀物輸出規制」

https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/review/attach/pdf/210730_pr102_04.pdf